

特集の扉

国際 P2M 学会設立 15 周年記念特集 「プログラムマネジメントの時代」

2020 年度編集委員会
亀山秀雄委員長、佐藤達男副委員長
編集委員 中村 明、中山政行
西田絢子、中川 唯

企画趣旨

2005 年の学会設立の趣旨の冒頭に次のように書かれている。「現代世界は複雑問題に遭遇し、人類の将来に不確実性や不協和を増加させている。われわれはこの問題解決のために専門領域を超え英知を結集し、全体最適、全体調和を目指して社会ニーズに応えねばならない。本学会は、学者、研究者、実務家を集めて、理論と実践面から社会、行政、産業、学界のために新しい問題解決型の知識進化と体系化を目的に設立された。われわれは新しい「仕組みづくり」を基調概念に据えて、革新的な価値創造と全体調和を同時に実現する思考や方法論を研究している。実践分野では既に定着しているプロジェクトとプログラムの 2 つの P に定義されるオンリーワンタイプの独創的なマネジメントが具体的なターゲットである。本学会の名称に P2M を選定したのも、このような学会趣旨を踏まえて、この分野の知的資産を継承し世代を超えて進化させる意図がある。以下省略」

特に今年、COVID-19 による社会の混乱により社会生活やビジネスの様式が大きな変革を迫られており、プログラムの観点からの事業マネジメントの重要性が増大している。

15 年前に学会のミッションとした「新しい「仕組みづくり」を基調概念に据えて、革新的な価値創造と全体調和を同時に実現す

る思考や方法論を研究」が今まさに重要性を増してきている。この流れを、本特集では「プログラムマネジメントの時代」と捉えて、これからどのように P2M により社会にニーズに応じていくかについて、社会、行政、産業、学界の P2M の専門家からビジョンを述べてもらうことにした。それらを統合して学会としてのこれからのビジョン作りのベースになればと企画した。

掲載内容

執筆依頼先は、学会の理事・評議員ならびに P2M を実践している主だった方、P2M の発展を期待している方などに広く執筆依頼することにした。併せて、学会以外の方にも呼びかけたところ、東京農工大学の千葉一祐学長や NPO 日本プロジェクトマネジメント協会前理事長の光藤昭雄氏から P2M への期待を書いた計 2 報の特別寄稿を頂けた。

寄稿内容から、特別寄稿 2 報、P2M 理論の拡充と教育関係で 5 報、デジタル化関係で 2 報、社会活動と SDGs への展開に関して 8 報に分野分けして合計 17 報の寄稿を掲載でき、15 周年の特集号にふさわしい特集記事を提供することになった。

年末のご多忙の中、執筆頂いた方に心から御礼を申し上げますと共に、国際 P2M 学会の新たな門出に期待したい。

(2020 年 12 月 21 日)